

先日は手賀沼定例探鳥会にご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回1月の「てがたん」は1月10日(土)で「冬鳥を楽しむ」がテーマです。ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のてがたん下見&打ち合わせは**12月27日(土)**です。よろしくお願いたします。

12月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→漁協前→ミニ手賀沼→手賀沼遊歩道
- 観察日時/天気 2014年12月13日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 参加者 19人(一般15人、子ども4人)
- 市民スタッフ 8人(石原直子、伊東茂子、木村稔、小泉伸夫、竹本周平、古川克彌、松村定雄、湯瀬一栄)
- 鳥博職員 2人(塩田いづみ、村松和行)

観察記録 - 12月に観察した生き物リスト-

【鳥類】

カモ科：オナガガモ、ミコアイサ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：ダイサギ、コサギ/クイナ科：オオバン/
カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ/ミサゴ科：ミサゴ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/
ムクドリ科：ムクドリ/メジロ科：メジロ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/外来種や家禽：コブハクチョウ、ドバト

【昆虫・クモ】

チョウ・ガの仲間：ムラサキシジミ、オオミノガ、イラガ(繭)/バッタの仲間：ケラ、オオカマキリ(卵のう)/
ハエ・アブの仲間：ハナアブ、イエバエ/甲虫の仲間：ナナホシテントウ/カメムシの仲間：ヨコヅナサシガメ、マルカメムシ/
ハサミムシの仲間：ハサミムシ種不明

【花】

キク科：セイヨウタンポポ、ノゲシ、ハルジオン、セイトカアワダチソウ/オオバコ科：オオイヌノフグリ、ツタバウンラン/
ナデシコ科：オランダミミナグサ/アブラナ科：ナズナ、タネツケバナ/シソ科：ホトケノザ/ツバキ科：カンツバキ/
ウコギ科：ヤツデ

【実】

クスノキ科/クスノキ/アオキ科：アオキ/モッコク科：ヒサカキ/モチノキ科：イヌツゲ、クロガネモチ/バラ科：
トキワサンザシ/ヤブコウジ科：マンリョウ/メギ科：ナンテン/ニレ科：ムクノキ/シソ科：ムラサキシキブ/
ツツラフジ科：アオツツラフジ/キジカクシ科：ジャノヒゲ/カバノキ科：ハンノキ、ヤマハンノキ/マメ科：ヤマハギ/
コミカンソウ科：ナガエコミカンソウ/キンポウゲ科：センニンソウ

12月の観察アルバム

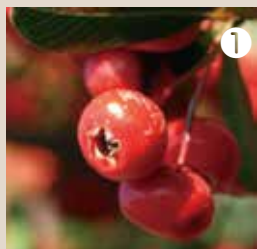


今回のテーマは「初冬の散歩道」でした。鳥の冬のお弁当づくりを通して初冬の植物や昆虫が、どのような姿で過ごしているのかを観察しました。

手賀沼ではミコアイサやユリカモメなどの冬鳥の姿を観察しました。



今月の案内人 伊東茂子さん 石原直子さん



トキワサンザシの実がリンゴと同じで子房ではなく、萼(がく)が膨らんだもの



外来種のナガエコミカンソウは実がつく柄が長いのが特徴



庭木によく利用されるクロガネモチ



斜面林で見つけたムラサキシキブとヘクソカズラ



水分が少なくなった実は鳥にとって効率よく栄養をとれる餌(写真はムクノキの実)



鳥のお弁当

完成した鳥のお弁当の食材には実や花、カイガラムシがついたヨシなど様々なものがありました。



12月てがたんの観察生物とルート



土の中の生き物探し

地上よりも温度変化が少ない土の中に、どんな生き物がいるのか探しました。



ハエやアブが多く集まっていたヤツデの花



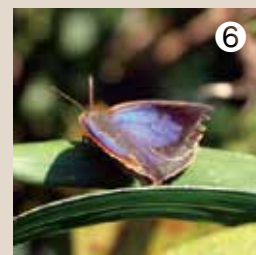
土の中でつけたハサミムシの仲間(幼虫)



イヌツゲはツゲ科ではなくモチノキ科の植物



センニンソウはクレマチスの名でお馴染みの園芸植物と同じ仲間



日なたで羽を広げていたムラサキシジミ

今月の鳥 鳥と木の実

今月の鳥のお話は「鳥と木の実」でした。木の実を好む鳥や植物の種子散布の戦略などについてお話しましたが、なぜ植物には赤い実が多いのでしょうか。

その理由の一つとして色の組み合わせがあります。赤は緑の補色であり、緑色の葉を持つ植物にとって、実をより目立たせることができるからと考えられています。



マンリョウ

常緑の葉の中で赤い実が目立ちます。



ナンテン

常緑で、実に微量の毒があり、鳥に一度に大量に食べられるのを防いでいます。



カラーサイクルの正反対の位置にある色を補色といい、その組み合わせは、互いの色を引き立てる効果があります。